

生産者通信

NPO法人
米ニケーションセンター
定価 100円(送料込)

22年産を振り返る

天候？ 施肥量？

品質低下の原因を探る

今回は、前月号でお知らせした「異常高温と米の品質低下の関係」について触れなくてはなりません。その前に、我が家の今年産の収量と品質の結果について大まかな報告をさせていただきます。

◇こしいぶぎ

- 反収7俵(飼料用米のため等級格付けなし、品質は2等相当)と9俵(加工用米で全量1等格付け)
- 特裁県認証コシヒカリ
- 反収7俵(2等相当)と9俵(1等相当)全量直販のため受検せず。
- 酒米の越淡麗
- 反収7・5俵(全量1等格付け)
- 有機コシヒカリ
- 反収8俵弱(全量1等格付け)

結果的には、受検したものは総て1等格付けとなりました。

また、幸いにして反収7俵の田は、こしいぶぎの0・8kgとコシヒカリの1・5kgのみでしたので、高温に

よると思われる減収被害は限定的でした。減収の直接的な原因は茎数不足です。さらに、収量の少なかつた田のこしいぶぎと特裁のコシヒカリは基部未熟・背白・乳心白粒が多く、県内で問題になっている高温障害をモロに受けてしまったようです。

問題は、同一地域の同じ条件下で、ほとんど同じ栽培管理を行ったにも関わらず、なぜ田によって反当り2俵もの収量差があり、しかも品質に大きな差が出たのかということですね。

①収量が大きく落ち込み品質も悪かった田に共通しているのは、耕土が浅くて地力がなく、比較的施肥量の多い田だったということです。

さて、今年産の品質低下の要因になった基部・背白未熟粒に関して、古いことになって恐縮ですが、印象に残っている事例を2点記させていただきます。

現在ではまったく作付されなくなりましたが、かつて多収品種として「新潟早生」が県内全域で作付されていた。紋枯病に弱く一度作付した田には、何年経過しても紋枯病の菌核が残ってしまい、閉口して

いました。この品種は比較的乳心白や基部・背白が発生しやすかったのですが、早刈りしたものは少なく、遅刈りする程それらが多発する傾向がありました。

②基部・背白等の発生要因は異常高温だけではないのではありませんかということですね。

もう一点は、柏崎地域の20年程度前のある検査場所での経験です。やはり、出穂期前後が高温の年でした。コシヒカリの品質が今年同様に基部・背白等の発生で1等と2等の比率が半々程度のことがありました。

た。ところが集落によってほとんどが1等になる集落と、逆にほとんどが2等になり格付けされる集落にはつきりと分かれてしまっていることが判りました。隣接している集落ですから気象(温度)による差はほとんどありません。ただ、水慣行でそれぞれの集落に田植時期に5日ほどの早晚がありました。田植時期の5日程度の差は出穂期では1・2日程度の違いにしかありません。わずか1・2日の出穂期の違いで、基部・背白等の発生に劇的な相違がで

まったことを覚えています。③高温障害を受けるか否かのタイミングは極めて短期間(時間)に限定される可能性があるのではないかと考えられるのです。

④一穂についている籾の中にも、高温障害を受けて基部・背白等の発生した米粒と、障害を受けずにまったく健全な米粒が混在しているわけですが、それはなぜでしょうか。

私自身の個人的な経験と見解ですが、とりあえず①④の問題提起をさせていただきます。高温障害といわれる基部・背白等の発

生原因を究明するための本質に迫っているかどうかは疑問ですが、この先は学者や専門家の皆さんの領域だということでお許しをいただきたいのです。

県は2010年産米の品質が低下した原因を究明するための専門家による研究会を設置することにしましたが、掘り下げた検討をいただいて原因究明と、技術対策を示していただくことを期待したいものです。

(内山常蔵記)

生産米品質低下 施肥少なさ影響か

新潟県米品質低下の原因を究明するため、県は2010年産米の品質が低下した原因を究明するための専門家による研究会を設置することにしましたが、掘り下げた検討をいただいて原因究明と、技術対策を示していただくことを期待したいものです。

(内山常蔵記)

震災体験基に 防災用品開発



自主防災組織メンバーなどが集まった訓練で紹介される長岡市のメーカーが開発した防災用品。5月、同市の南中学校

中越の各社

中越では、「にいがた産業創造機構(NICO)防災・被災産業研究会」の会員の6社などが、防災用品の開発に取り組む。業種も多様だ。中でも、県内外の多くの企業が製造するのが非常用レトルト米飯だ。味付けするのが被災者への配慮と思われがち。でも実際は、トイシに行く回数を減らしたいと、塩分を含むものは避けられていた」と指摘するのはエコーライス新潟長岡市(46)。

被災地だからこそ得られたノウハウとともに、県内外の自治体などに製品を紹介。腎臓疾患などで食事制限中の人も食べられる低タンパクの備蓄食「はんぶん米」は、東京都から計9万食を受注するヒット商品になった。

しかし、常に期間に拘る。被災地からこそ得られたノウハウとともに、県内外の自治体などに製品を紹介。腎臓疾患などで食事制限中の人も食べられる低タンパクの備蓄食「はんぶん米」は、東京都から計9万食を受注するヒット商品になった。

ヒット作も徐々に 平常時活用へ工夫重ねる

食事制限に配慮した非常食、折り畳み式の担架、一斉に社員が所在確認ができるシステム……。中越地域の企業が、中越地震の中越沖地震、7・31水害の経験を生かし、防災関連の商品開発を進め、ヒット商品も出始



めている。ただ、不況や自治体の財政難の中、緊急時しか必要とされない商品の売り込みは難しいのも実情で、各社は平常時にも活用できる製品を開発するなど工夫している。

(長岡支社・黒島亮)

や病人が出たときのため、工場などに備えるケースが多いという。

× × ×
パソコンや携帯電話のメール機能を利用し、社員の所在確認ができるシステムを開発したアイトラスト(同市)の酒井隆副社長(48)も「災害時専用のシステムよりも営業時に役立つものが求められている」と言う。

このシステムは、普段は外出、打ち合わせなど社員の業務状況の確認に使う。災害時モードに変更すると、出社の可否などのチェックができるようになる。白社用の所在確認システムが中越沖地震で役立つのをヒントに、1年ほど前に外販を始めた。

酒井副社長は「中越の企業が作ったといえば、防災に特化したものでなくとも災害に強い印象を持つてもらえる。このブランド力を生かすことが、被災というマイナスをプラスに変えるのにつながる」と力を込めた。

2010年11月26日付 新潟日報

農機具の手入れは完璧ですか？

機械の清掃は米の品質管理につながります

今年の稲作シーズンも終わりを迎えましたが、
使用した機械のお手入れはすみましたか？
来シーズンをスムーズに迎えるためにも、清掃と
破損個所のチェックをお勧めします！

